

第37回全国都市緑化ひろしまフェア ひろしま はなのわ 2020

「PREC・LAT共同企業体」(構成員:株式会社ブレック研究所・株式会社LAT環境クリエイト)
株式会社ブレック研究所:棚瀬 新一朗、山口 朋浩 株式会社LAT環境クリエイト:青木 晋、森本 直 株式会社TONZAKOデザイン:松崎 淳、高瀬 佐和子



●広島地域資源を活用して、県内全域で回遊と交流を生み出す景観演出

全国都市緑化ひろしまフェアは、「広島ならではの花や緑等の地域資源を活用して、県内全域で回遊と交流を生み出し、花や緑の大切さと平和の尊さを世界中の人々と分かち合い、より一層の豊かな地域づくりと世界恒久平和の実現につなげていく」をコンセプトとしている。

常時県内各地のスポットイベントの情報発信を行うことで、県内各地への来場者の回遊と交流を促す展開を行うこととした。



●都市に刻まれた記憶を呼び起こす

メイン会場となる旧広島市民球場跡地は、戦後の復興において、広島東洋カープ本拠地として心の支えとなってきた場所である。会場整備に当たっては、旧市民球場のスタンド形状のアースワークと、市民球場時代の人々の賑わいを表現するイングリッシュボーダーガーデンの花植栽を施し、「はなのわ」と題した外周立体花壇を創出した。一方、丹下健三が提案した平和記念公園からつながる南北の景観軸を、会場内に創出、「未来に向けた思い出年表」として参加型の短冊メッセージの展示を行い、広島の復興と戦後の緑化の歴史や未来への希望を体感できる場とした。



●既存のお祭りやイベントを花とみどりでブラッシュアップ

各自治体の既存のお祭りやイベントを、都市緑化フェアのスポットイベントとしてブラッシュアップするため、県内各地域単位で「はなのわ会議」を実施した。これは、フェアを契機とした花とみどりの関係団体間の協力体制のひな形を構築したものであり、フェア後の県全域での花やみどりの普及、発展へとつなげる意図で開催運営を行った。



●花とモザイクカルチャーで風景を描き出す

外周立体花壇である「はなのわ」は、イングリッシュボーダーミックス方式を基本として、日本庭園の見え隠れ、遮りなどの風景演出手法を加えることで、奥行き感のある景観演出を行った。「ひろしま百景花壇」では、県内有数の景勝地である「雄橋」「三段峡」や、所縁のある伊邪那美命(イザナミノミコト)をモチーフとして、約1万5千鉢の多肉植物を利用した国内最大級のモザイクカルチャーを展開した。